

固定資産台帳を活用した遊休土地等の売却（岡山県真庭市）

事例概要

- 統一的な基準による固定資産台帳を整備したのをきっかけに、保有している遊休土地等の情報を市のホームページで公表し、売却することにより遊休土地等の有効活用を進めている。

取組内容

- 固定資産台帳のデータを活用して、未利用の市有地の洗い出しを実施。
- 平成30年5月より、市のホームページにおいて、売却対象となる「物件一覧表」を写真入りで公表し、保有する財産（土地・建物）を有効活用するため、自らが実施主体になろうとする市民や事業者から、自由に創意工夫に富んだ発想やノウハウを生かした提案を募集。
- 活用の提案があった物件について、市で内容を協議し、課題を整理し、活用方針を決定。
- 活用方針が決まった物件について、活用内容の条件をつけて入札を実施し、当該資産を事業者に売却。

未利用市有地の活用提案を募集します

最終更新日時 2019年10月18日（金曜日） 09時54分 コンテンツID 2-1-5-11425 印刷用ページ

地域：

情報発信元： [財産活用課](#) 久世本庁舎 3階

～皆様からの御提案をお待ちしています～



[旧中津井駐在所跡地\(上中津井\)](#)



[旧有隣中学校体育館跡地\(西原\)](#)



[旧湯原憩いの家跡地\(豊栄\)](#)



[旧向湯原駐在所跡地\(豊栄\)](#)

効果等

- 固定資産台帳を整備することで、市の保有する財産の状況が一覧的に把握できることから、効率的に売却対象となる物件を選定できている。
- 令和元年度は旧教員住宅1棟（建物・土地）を売却済み。今後、高齢者向け施設として活用予定。